



動詞の連用形「～(ながら/たい)」

この課では「食べ(ながら)」「歌い(ながら)」「行き(ながら)」や「食べ(たい)」「歌い(たい)」「行き(たい)」など、後に「～ガチャナ(ながら)」や「～ブシャン(たい)」などが続く動詞の形(連用形)を学びます。

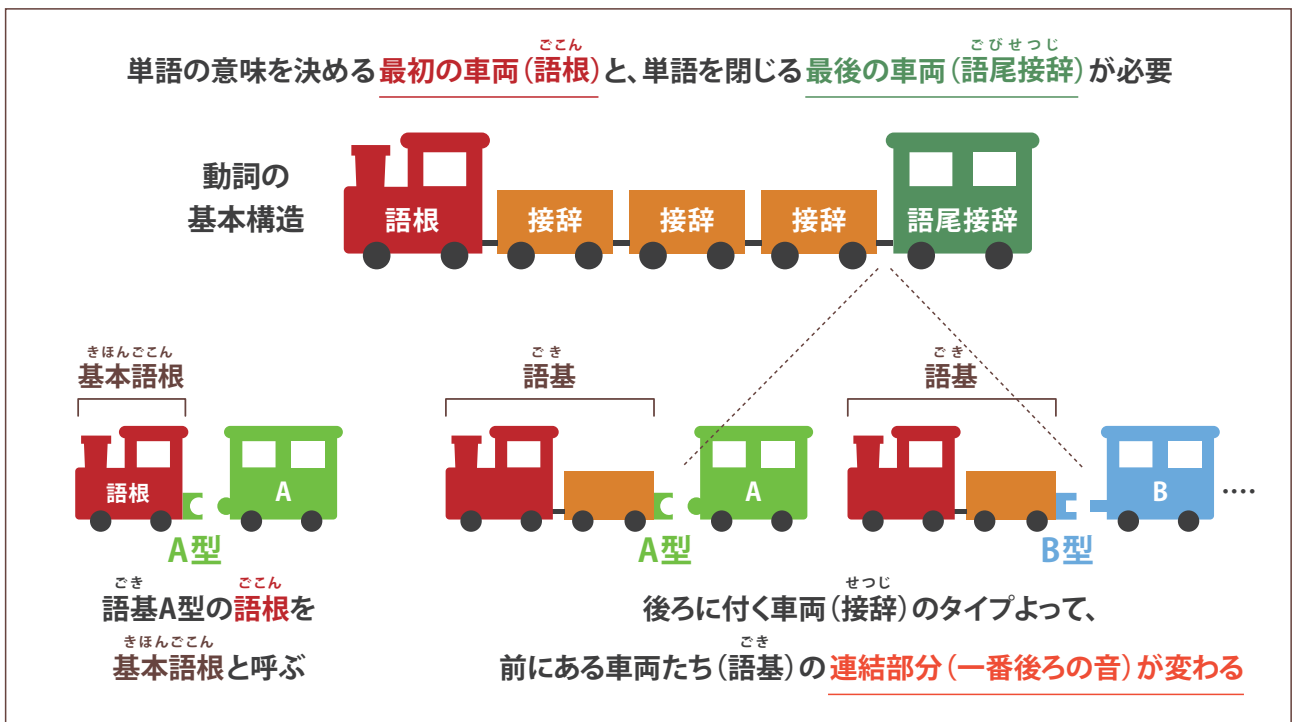
ポイント

動詞の連用形「～(ながら/たい)」は、動詞の語基(B型)に、連用形の語尾 -i¹ を付ける。

1 動詞の基本構造 (3-5「動詞の基本構造」参照)

動詞を列車にして説明します。動詞は、単語の意味を決める機関車(語根)に、様々な意味を持つ、付属の車両(接辞)がついて作られます。列車が走るためには、最初の機関車(語根)と、単語を閉じられる、最後の車両(語尾接辞)が必要です。

ある車両(接辞)の前にある車両全体を、その接辞に対する「語基」と呼びます²。後ろに付く車両(接辞)のタイプによって、前にある車両たち(語基)の連結部分(一番後ろの音)が変わります。このように、変化する語基のタイプには、A型(基本形)、B型、C型の3種類があります。語基A型の語根を「基本語根」と呼びます。



¹ -は接辞のマークです。

² 語根に直接、語尾接辞が接続する場合には、語基=語根になります。2以降の説明は、すべて語基=語根ですので、語基と語根を読みかえても大丈夫です。

2 連用形

連用形の接辞(-i)は、語基(B型)に接続します。

語基(B型)については、西部方言と東部方言で違いがあることが分かっているので、ここでは分けて説明します。それぞれの方言の中でも地域差があるかもしれないので、西部方言は代表として上平川方言、東部方言は国頭方言を例にして説明します。

2-1 上平川方言(西部方言)

上平川方言では、語基B型が語基A型(基本形)と違うのは、語基A(基本形)がnyで終わる *siny*³「死ぬ」の語だけです。表1を見てください。⑥語基A型が「ny」で終わる語(例:*siny*「死ぬ:A型」)は、語基(B型)では「n」で終わる形、すなわち *sin*「死ぬ:B型」という形になります。

表1. 語基の変化(上平川方言)

語基のタイプ	① 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ ny 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
語基 A (基本形)	母音	s	k	t	g	ny	m	b
語基 B	母音	s	k	t	g	n	m	b
語基 C	母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

さて、連用形は、動詞の語基(B型)に接続するので、*siny*「死ぬ」の連用形は、語基B型 *sin* に連用形の接辞-iが付いて *sini*「死に(たい)」となります。

2-2 国頭方言(東部方言)

東部方言は、歴史的に *ki* → *chi* (キ → チ)、*gi* → *zi* (ギ → ジ) 音の変化がある(1-2「しまむにの地域差」を参照)ので、西部側より少しだけ変化が多くなります。

表2を見てください。③語基A型が「k」で終わる語(例:*hak*「書く:A型」) ④語基A型が「t」で終わる語(例:*mat*「待つ:A型」)は、語基(B型)では「c」で終わる形、すなわち *mac*「待つ:B型」や *hac*「書く:B型」のような形となります。⑤語基A型が「g」で終わる語(例:*uig*「泳ぐ:A型」)は、語基(B型)では「z」で終わる形、すなわち *uiz*「泳ぐ:B型」のような形になります。

³ 語根だけの形を、ななめ文字で表します。語根だけでは単語は成り立ちません。

ごき くんじゃいむに
表2. 語基の変化(国頭方言)

ごき 語基のタイプ	① 母音 終わり	② s 終わり	③ k 終わり	④ t 終わり	⑤ g 終わり	⑥ n 終わり	⑦ m 終わり	⑧ b 終わり
ごき 語基 A (基本形)	母音	s	k	t	g	ny	m	b
ごき 語基 B	母音	s	c	c	z	n	m	b
ごき 語基 C	母音 t	ch	ch	ch	j	j	d	d

さて、連用形は、動詞の語基(B型)に接続するので、**hak**「書く」の連用形は、語基B型 **hac** に連用形の接辞 **-i** が付いて **haci**⁴「書き(たい)」となります。**mat**「待つ」の連用形は、語基B型 **mac** に連用形の接辞 **-i** が付いて **maci**「待ち(たい)」となります。**uig**「泳ぐ」の連用形は、語基B型 **uiz** に連用形の接辞 **-i** が付いて **uizi**⁵「泳ぎ(たい)」となります。

3 発音してみよう

連用形は、様々な語と続けて使われます。ここでは「～ブジャン(～たい)」という形と続けて発音してみましょう。2段ある場合、上の段が上平川方言(西部方言)、下の段が国頭方言(東部方言)を表しています。

abi - i bushan 呼ぶ - 連用 たい 「呼びたい」	nas - i bushan 産む - 連用 たい 「産みたい」	hak - i bushan hac - i bushan 書く - 連用 たい 「書きたい」	mat - i bushan mac - i bushan 待つ - 連用 たい 「待ちたい」
uig - i bushan uiz - i bushan 泳ぐ - 連用 たい 「泳ぎたい」	sin - i bushan 死ぬ - 連用 たい 「死にたい」	kam - i bushan 食べる - 連用 たい 「食べたい」	asib - i bushan 遊ぶ - 連用 たい 「遊びたい」

4 ci = chi「チ」と読んでください。

5 zi = ji「ジ」と読んでください。

練習問題

上の説明を参考に、次の動詞の連用形を予想して書いてみましょう。

(1) *nibu* 「眠る」 → () 「眠り(たい)」

(2) *hurus* 「殺す」 → () 「殺し(たい)」

(3) *ak* 「歩く」 → () 「歩き(たい)」

(4) *tat* 「立つ」 → () 「立ち(たい)」

(5) *fuug* 「漕ぐ」 → () 「漕ぎ(たい)」

(6) *num* 「飲む」 → () 「飲み(たい)」

(7) *tub* 「飛ぶ」 → () 「飛び(たい)」
